椿地区にまつわるストーリー

山側から市街地に入り、三角州の周囲を巡る道は、水と共にある萩の景色を楽しめるルートです。萩城下を見守るような場所にある大照院や、三角州周辺の景色のよい場所を選んだ「萩八景」があるように、歴代藩主や城下町の人々も、この景色を愛していたのでしょう。

水に関わる地名がたくさん！

川の流れに沿ってある土地には、「氵」や「川」、「原」など、様々な水や湿地に関わる漢字を使った地名がつけられています。

椿側の一例：霧口、沖原、濁淵、小松江、桜江
三角州側の一例：川島、江向、河添、土原

2つの川によって作られた地形

椿地区は、東から流れる阿武川の沖積地と、南から流れる大屋川の扇状地で形作られています。そのため、平らに見える土地もわずかな起伏があり、沖原の辺りはすり鉢状の地形になっています。扇状地にあたる大屋では、各所で湧き水が出ています。一方、大屋川は長年の土砂の堆積によって、周囲の土地より川床が高い天井川であるため、あまり水が流れていません。そのような中でも安定的に農業用水を確保するため、逆サイフォンや高低差などを用いて、水が滞りなく広がるような工夫が施されています。

大水から三角州を守った椿

川の流れに沿った豊かな土地は、一方で水との戦いにさらされる土地でもありました。特に江戸時代になると、三角州の上に作られた城下町を守るため、対岸の川島側より一段低く堤防を作って、大水（洪水）であふれた水が椿側に流れ込むようにしたり、もともと山に近い場所をまっすぐに流れていた川をつけかえて、川の流れをゆるやかにしたりして、椿地区が遊水池となるようにすることで、三角州内の被害を最小限にとどめていました。

涙松からふりかえる萩城下

大屋の辺りから街道が山の中へと入っていくため、萩城下見納めの場所となっていました。人々は、ここで萩の町を見返り、別れを惜しんで涙したり、戻ってきた喜びで嬉し涙を流したりしたことから、いつしか涙松と呼ばれるようになりました。幕末、安政の大獄で江戸送りとなった吉田松陰も、「帰らじと思いさだめし旅なれば、ひとしおぬるる涙松かな」と歌を詠みました。この「松」は、一本松ではなく「街道松」といって、街道沿いに一定間隔で植えられた松並木でした。

街道を行き交う人々でにぎわった大屋

（八江萩名所図画　大谷観音橋の図）

大屋は、「大谷」や「鴛谷」とも記され、萩城下に入る直前の場所として、番所が置かれ、街道を往来する人々や、旅人をもてなしたり、商いをしたりする人々でにぎわっていました。

江戸時代に萩往還が整備されるまでは、こちらの道が山陽側と萩とを結ぶ主要な道でした。萩藩祖・毛利輝元が萩に入る際にも、この道を通ったといわれています。

1月下旬～3月中旬にかけて色とりどりの梅が咲き誇ります。

萩往還に沿って、石垣の上に建つ昔ながらの農家があります。その隣には弘法様を祀ったお堂と、おしろいをつけたお地蔵様が道行く人を見守っています。

歴史の道・萩往還

萩往還は、毛利氏が慶長9年（1604）の萩城築城後、江戸への参勤交代のための「御成道」として開かれ、日本海側の萩から瀬戸内海側の三田尻港（防府市）までをほぼ直線で結ぶ全行程53kmの街道です。山陰と山陽を結ぶ重要な交通路であり、幕末には、多くの志士たちが往来しました。

萩市観光協会で入手可能

萩往還は「歴史の道」としてウォーキングルートが整備されています。萩往還トレイルマップを片手に歩いてみませんか？

凡　例
- 御成道（萩往還）
- 公衆トイレ
- 車いす対応トイレ
- 駐車場
- 有料駐車場

施設のご案内

萩駅舎（萩市自然と歴史の展示館）

萩駅舎は、大正14年（1925）に建てられたもので、現在も駅舎として使用されています。館内には、萩の美しい自然や歴史、日本の鉄道の父 井上勝に関する資料などを展示しています。

住　所：萩市大字椿3537-3
電　話：0838-25-6004
時　間：9:00～17:00
料　金：無料
定休日：12/29～1/3

萩市観光協会

JR萩駅のすぐ隣にあります。観光、交通、宿泊施設のご案内などご相談いただけます。市内の詳しい観光資料や、周辺観光地のパンフレット等も豊富に取り揃えています。

住　所：萩市大字椿3537-3（JR萩駅隣）
電　話：0838-25-1750
ＵＲＬ：http://www.hagishi.com/
時　間：9:00～17:45（12月～2月 9:00～17:00）
定休日：年中無休

道の駅　萩往還

萩で採れた新鮮な野菜や果物の直売所があり、物産館では萩の名産品を取り揃えています。見島牛・見蘭牛を使ったメニューが人気のレストランや萩の魚介類でとった出汁が好評のうどん店もあります。

住　所：萩市大字椿鹿背ヶ坂1258
電　話：0838-22-9889
時　間：9:00～18:00
定休日：年中無休（見蘭牛 ダイニング玄は火曜日休）

松陰記念館

吉田松陰の旅の軌跡や松下村塾を再現したコーナーなど、萩の歴史散策をより楽しめる様々な展示があります。

時間：9:00～17:00　年中無休・入場無料

ファーマーズマーケット ふれあいらんど萩

新鮮な野菜・果物・花・農産物加工品などを販売しています。肉や魚、弁当、パンも人気です。

住　所：萩市大字椿3395-12　電　話：0838-21-7770　時　間：9:00～18:30
定休日：第1・第3水曜日、年末年始 1月1日～3日

史　跡

大照院

初代と偶数代萩藩主の菩提寺です。建物が国の重要文化財に指定されています。

住　所：萩市大字椿青海4132　電　話：0838-22-2124
時　間：【3月～11月上旬】8:00～17:00　【11月下旬～2月】8:00～16:30
定休日：年中無休　料　金：大人 200円、小・中学生 100円

椿季節暦

春
- 小松江の晩鐘
- 南明寺の糸桜
- アンズの花（梅林園付近）
- 梅林園の梅

夏
- 椿地区の田園風景
- 金谷神社・幽玄の世界（8月13日）
- 大照院の万灯会（8月13日）
- お地蔵様のお接待（笠屋・霧口）
- ホタル
- モリアオガエル

秋
- 上津江の晴嵐
- 椿八幡宮の大イチョウ
- 大照院のイロハモミジ
- 椿八幡宮のお祭り（10月第2日曜日）
- 金谷神社の秋季大祭（11月第2土・日曜日）

冬
- 桜江の暮雪
- 萩駅のイルミネーション

H29.3 現在

編集発行　椿地区有志
萩まちじゅう博物館文化遺産活用事業実行委員会

平成28年度文化庁文化芸術振興費補助金
（文化遺産を活かした地域活性化事業）
文化庁 Agency for Cultural Affairs, Government of Japan

萩まちあるきマップ

椿地区 おたからマップ

椿地区は、萩の市街地の玄関口ともいえる場所です。阿武川の沖積地と大屋川の扇状地が重なり、三角州を取り囲む山々の麓に広がるゆるやかな土地には、古くから人が住み、農業が営まれてきました。奈良の大仏建立に活躍したとされる白牛の伝説があり、平安時代には河原に牛を放牧していたことから「牛牧」と呼ばれ、鎌倉時代には氏神として椿八幡宮が勧請され、中世には「椿郷」と呼ばれていたことが伝えられています。

江戸時代には、萩から防府三田尻へとつながる萩往還が整備され、萩藩主が参勤交代で江戸へ出立する際、安全祈願に立ち寄った金谷天満宮（現金谷神社）や、萩城下への出入りを厳しく監視した大木戸、初代藩主の菩提寺として大照院などが置かれました。山手の大屋地区から先は街道が山の中へ入ることから、萩城下の見納めとなる場所でもあり、吉田松陰も街道松越しに萩城下をふりかえり、「涙松」として歌に詠まれました。大正時代には、鉄道が三角州の周囲を巡る形で敷設され、萩駅舎が建設されるなど、いくつもの時代を経ながら、多くの人や物が行き交ってきました。

萩の玄関口としての歴史・文化を伝える事物や風景を訪ねてみませんか。

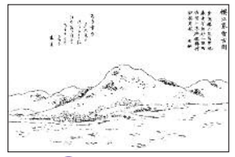
このマップは萩まちじゅう博物館の各エリアのおたからを紹介するマップとしてシリーズで発行しています。詳しくは萩データベースでチェック!!　machihaku.city.hagi.lg.jp/db/

HagiMachijyuHakubutukan
萩まちじゅう博物館

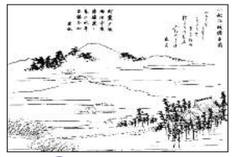
椿おたからマップ

萩八景（八江萩名所図画）

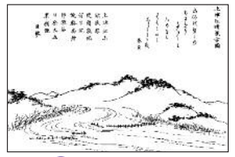
江戸時代に選定された橋本川と松本川沿岸の８つの美しい風景です。三角州の周囲を取り巻くように選ばれており、椿地区ではその内「桜江の暮雪」「小松江の晩鐘」「上津江の晴嵐」を見ることができます。



Ⓐ桜江の暮雪



Ⓑ小松江の晩鐘



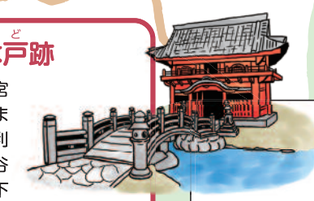
Ⓒ上津江の晴嵐

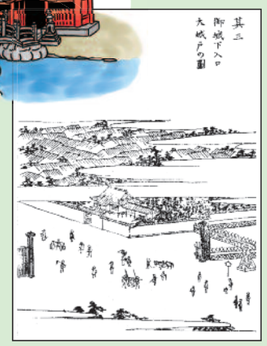
萩の玄関口・椿を巡る　おすすめトレイル

1 金谷神社 ◀ 2 大木戸跡 ◀ 3 萩駅 ◀ 4 椿八幡宮 ◀ 5 大照院

1 2 金谷神社と大木戸跡

鎌倉時代に筑前太宰府天満宮から勧請したと伝えられています。江戸時代中期に５代藩主毛利吉元が現地に遷宮しました。金谷神社は金谷天満宮と呼ばれ、城下の入口に位置していました。江戸時代には金谷神社の前に萩城下町の表玄関ともいえる大木戸が設けられていて、日暮れから夜明けまでは治安維持のため城下への出入りを差し止めていました。





大木戸（八江萩名所図画）

昔の椿の様子

橋本橋から延びる街道が濁淵の辺りで御成道と赤間関街道とに分かれ、御成道の途中から椿八幡宮への参道も延びていました。三角州側から橋本橋を渡った辺りは「雑色」という下級武士の家が並んでいて、これが「雑式町」という小字の由来といわれています。小松江の辺りまで水が入って湾のようになっていました。水量を調節するために設けられた樋の跡が残っています。

御国廻御行程記（山口県文書館蔵）

おすすめトレイル　椿の田園風景と歴史を歩く

- 6 逆サイフォン式の用水路
- ● 大屋川
- 7 伝 萩の乱供養碑
- 8 葵神社
- 9 南明寺
- 10 申年の大水の碑

Ⓐ桜江の暮雪 萩八景

三角州平安古・河添側から雪化粧の桜江と山を眺めた風景

Ⓑ小松江の晩鐘 萩八景

夕暮れ時、大照院の鐘の音が響く小松江の風景

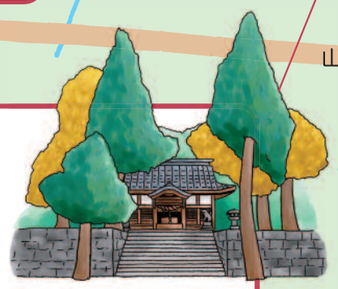
Ⓒ上津江の晴嵐 萩八景

朝霧のかかった阿武川を眺める上津江の風景

5 大照院

萩藩初代藩主毛利秀就の菩提寺として、江戸時代初めに建立された臨済宗の寺院です。江戸時代中期に再建された鐘楼門・本堂・書院・庫裏・経蔵が、国の重要文化財に指定されています。毛利家の菩提寺としては椿東の東光寺と対になっていて、大照院には初代と２代から12代までの偶数代の藩主と夫人の墓があります。萩の乱の首謀者の１人で、処刑された奥平謙輔の墓もあります。

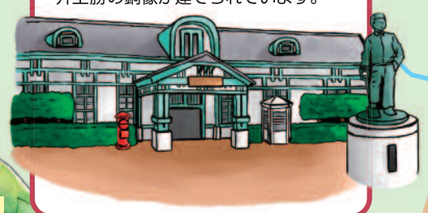
4 椿八幡宮



椿や川上、椿東などの氏神様として大事にされてきた神社です。鎌倉時代に鶴岡八幡宮を川上に勧請したのがはじまりとされ、約70年後に現在の地に移されました。江戸時代には毛利氏の庇護を受け、本殿などが整備され、現在の形になりました。かつて石段の前には広い馬場があり、流鏑馬の祭事も行われていました。付近の道路脇には、「御旅所」と呼ばれる御輿を載せるための石段や、参道や境内の入り口を示す石の鳥居や灯籠が、移設されながらも残されています。

3 萩駅舎

大正時代に建築されたもので、白い壁に明るい水色の柱や梁が美しい洋風建築は、開業当時の姿をよく残し、80年余りを経た現在も駅舎として使用されています。駅前には、日本の鉄道の父井上勝の銅像が建てられています。



9 南明寺

標高300mの南明寺山中腹の奥の院にある観音堂からは、椿地区と萩市街地を見下ろすことができます。

南明寺のイトザクラ

参道の入口にあるイトザクラは早く咲いてすぐに散ってしまうことから見に行くタイミングが難しく、昔から「南明寺のイトザクラ、散っちゃあ行っちゃあ見ちゃああっても、咲いちゃあ行っちゃあ見ちゃあない（花が散った後に見に行く人は多いが咲いた頃に見に行く人はあまりいない）」とうたわれて親しまれてきました。

8 葵神社と白牛伝説

東大寺の大仏殿を創建するとき、沖原の若者が白牛を連れて、工事の使役に参加しました。白牛が抜群の働きを見せたので、聖武天皇から大いに褒められ、白牛の飼い主は「葵の前」という姫をもらい受けました。しかし、葵の前は田舎暮らしに慣れず、都恋しさに泣いてばかりで、そのまま亡くなってしまいました。その姫を祀った「葵大明神」とよぶ社とタブノキが今も残されています。

御波止場跡

藩主毛利家が対岸の南園御殿との行き来に使った。

蓮正寺

萩で最初の鉄筋コンクリートの本堂

毛尻の狼煙場跡

ここから煙を立てて山口方面と通信していた。

藤田清助翁顕彰碑

申年の大水の被害復旧に尽力した。

河上弥市誕生地

２代目奇兵隊総督

桂太郎旧宅

旧湯川家屋敷

原社の波止場跡

養蚕普及に努めた実業家 中村正路が設立した養蚕工場「蚕桑原社」で利用されていた波止場の跡

太鼓湾

阿武川が橋本川と松本川に分岐する場所。
三角州のはじまり。
河原に降りて水辺の風景を楽しむことができ、野鳥観察スポットでもあります。

椿八幡宮の参道

萩駅建設の際、鳥居をここに移した。

青海郡司鋳造所跡

幕末には大砲も鋳造していた。

沖原鋳造方跡

幕末に鉄砲を製造していた。

六本松跡

かつてはこちら側が幹線道路で、車窓から指月山が見えると「萩に帰ってきた」と感じる眺めでした。

地元で萩の乱の供養碑と伝えられている石碑。

この辺りは、前原一誠が明治９年（1876）不平士族とともに起こした萩の乱の激戦地でした。

六本杉跡

かつてこの辺りにあった六本杉から萩の乱で使われた鉛弾が出てきたそうです。

先人たちの農業の工夫

和泉寺跡

小倉四賢墓所

藩校明倫館の教育に尽力した小倉四先生の墓碑

観音橋・道標

御口屋（番所）跡

大屋市跡

萩ウェルネスパーク

野球場やスポーツ広場、多目的体育館に大型遊具など、様々な目的で利用できる運動公園

申年の大水

天保７年（1836）萩地方は大洪水に見舞われました。
椿地区も浸水による大きな被害を受けました。
この大洪水は「申年の大水」として今も語り伝えられています。

凡例

萩往還 / まぁーるバス西回りコース / まぁーるバス東周りコース / まぁーるバス停 / トイレ / 車イス対応トイレ / 観光案内所 / ビジット・ジャパン案内所 / 駐車場 / 波止場跡

↑至萩市街、益田市
↑至東萩駅
←至玉江駅
←至三見、長門市
↓至明木、山口市
至川上